

(2)宮城県図書館長	佐々 久
(3)福島大学助教授	庄司吉之助
(4)〃	小林 清治
(5)福島県社会教育主事	梅宮 茂

◎講義要点

- 1, 幕藩体制の確立—福島県の中世史料を中心として
- 2, 近世文書の取り扱い方
- 3, 石川文書を中心として
- 4, 福島県地方史研究の動向
- 5, 近世史料展の解説

◎研究発表者

- (1)幕末期における郡山の経済状況  
郡山市地方史研究会 田中 正雄
- (2)会津藩御歳入領における中付駕者と在郷商人について 田島町郷土史研究会 室井 康弘
- (3)「諸貴帳」について 福島市郷土史家 東条源次郎
- (4)相馬における二宮御仕法について 相馬郡鹿島町史編さん委員 広瀬 敏
- (5)会津俳諧史の概要 会津若松市俳諧研究家 上野 敬二
- (6)巡見使制度について 一天明 8年奥羽松前巡見使の一  
福島県立図書館 誉田 宏  
参会者 約80名

35, 12, 5	図書館実務講習会 (図書の整理)	郡 山
35, 12, 12 13	県立図書館長、公民館長会議(県公共図書館協会加入所、館評議員会代行)	福 島
36, 2, 18	第9回読書感想発表県大会	須賀川市工商会議所ホール (午前 9時~午後 3時)

福島県立図書館協議会の委員名簿

任 期 (昭和36年 1月11日 )  
(昭和38年 1月10日 )

氏 名	住 所	役 職 名
安藤喜代見	福島市古川	福島放送局長
梅田 節子	相馬郡鹿島町横手字大門20	相馬郡鹿島町教育委員
菅野 定次	福島市野田町字凱陣 1の1	県立福島高等学校教頭
柳田 三郎	福島市八島町87の17	福島市教育委員会教育長
熊田 良二	田村郡田村町大字大供字本地1	福島県議会経済文教委員長
佐藤 淑子	福島市上浜町72	福島市立福島第三中学校教諭
永野 孝夫	平市才穂小路	福島県PTA連絡協議会副会長

花見 和子	耶麻郡塙川町小府根字利根川	主婦(県婦人教育指導員)
平井 博	福島市森合西養山34	福島大学学芸学部長
山崎 義人	郡山市麓山町270	郡山市図書館長

## 2 館内奉仕

公共図書館の奉仕とは、常に、所有するすべての資料を活用して効果的、能率的な図書館サービスを行なうことである。

それにはまず、地域社会の日常生活に直結した利用態勢を整えるとともに、学校教育を側面から援助し、立体的な図書館機能を確立して、積極的に奉仕活動を繰りひろげ、地域の要望に応えることが必要である。

そこで、本館では昨年6月に、利用者の立場を考えた利用規則の改正を行い、10月には参考事務室(読書相談室)に工夫改善を施すとともに、収容人員の合理化をはかったが、現実には二義的な学校教育を援助することに比重が強く、そのため館内奉仕のエネルギーも、学生生徒の利用者と浪人グループに集中せざるを得なかったこのことは、ひとり本館のみならず全国的な図書館界の傾向である。

この現象に対し再検討を加え、一般成人利用者の吸収拡大をはかって県民の期待に応えたい。

### A 利用状況と利用者層(別表参照)

利用者の約80%は学生、生徒によって占められているが、総数においては、昨年度に比し3,964名の減少をみた。このことは、最も入館者の多い学期末試験、進学受験期に館内の混雑を緩和する手段として、学生生徒には座席券制を採用し入館を制限した結果である。

そこで、学生、生徒で最も混雑する日曜日の入館状況をみると、開館時刻1時間前から来館はじめ、200人の定員に対して、300人前後待機しており、開館(10時)と同時に10分位で満員となる。それ以後、午後3時頃までは殆ど退館する者がいないため、待っている者のうち、入館を断念し帰宅する者も多い。

このように、座席の新陳代謝の不活発の結果が、総数においても減じた一因とみられる。その対策として、昨年10月より中学生室の一部を模様替えして、35名程度高校生に開放し、館内の混雑防止につとめたが、満足すべき状態ではなかった。

そこで、学生、生徒利用者の大半を占めている市内高校生利用の状況を、男女別、学校別に調査した結果、一般的にみて、普通科課程と実業科課程とでは、教育方針も自から異り、放課後や休校日の自由時間の過しかたもそれぞれの目的によって変ってくるため、図書館利用の面にも、その実態がよく現われている。(別表参照)

こうした学生利用者が多い反面、一般成人の館内、館外(個人)利用者数が低下した原因とみられるものに、